

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念とは別に独自の理念作りを行っている	○ 独自の理念作りを行っていく（見直し）
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念として掲げた物に対しては取り組んでいる。最近は相談する機会も増えたと思う	○ 特に勉強会の実施などで感じている。日々取り組んでいるので今後も継続したい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	町内会や教育現場（小中学校）等と連携をとりながら、ボランティア活動など依頼している。運営推進会議を通じて地域の代表（公民館長）などにも理解を深めてもらっている	○ 少しずつではあるが浸透の芽は出ているので大きく育てたい
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出会った人に対する挨拶は徹底されてる。職員数名が同自治区内に住んでいる為声掛け等は行われているが、門があるためか気軽に立ち寄れるまでは行われていない	○ 近隣の高齢者の方々が遊びにこれるような場所にしていきたい。事業所で催しなどの企画も検討してきっかけ作りをしていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の全活動に参加することは無理だが、出来る範囲で職員利用者共に参加している。地区の祭りのみこしが寄ったり、協力病院と合同で祭りをを行うなどの交流を行っている	○ 地域の活動への参加には職員数が必要なだけ確保できていないので、増員を運営者に働きかけていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者に役立つことへの話し合いは十分に話されていない	○	地区社協の「介護者のつどい」での勉強会などの機会はあったが、十分とは言えない。職員が考えていることの実現に向け一歩踏み出すようにしたい（事業所だけでは難しいので包括支援センターと相談したい）
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善できるよう心がけ取り組んでいるが、書類の作成、居住空間の環境整備など不足部分も多い	○	一歩深く見据えて検討をしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	実施後の報告を各職員に行い、全員で話し合い改善を行っている	○	利用者の参加も実施し始め、意見を反映した取り組みを行っていききたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護職員は同行していないが管理者は各方面へ取り組んでいると思う	○	管理者の取り組みを各職員が把握できるように報告、情報提供を頻繁に行っていききたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなかったような気がする	○	一部職員には伝える機会はあったが、全職員へは出来ていないので均等に機会が渡るよう数回に分けて勉強会の実施をしていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	起こらないように各職員自覚の下防止に心がけているが、学ぶ機会はなかったかも（資料の書類配布はあった）	○	職員会議でも虐待となる行為についての勉強会を実施。全職員に資料を配布し確認をしてもらっている。不定期ではあるが、環境面での工夫で防止できないかの話し合いを行っている。まだまだ全職員には浸透していないので継続的に学ぶ機会を設けたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者から説明を行い理解納得が得られている。一般職員は立ち会うことがないのでどの程度かはわからない	○	管理者のみならず、全職員が同等の説明が出来るよう教育の機会を作っていきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	時々利用者家族の方と電話を行い解消（解決）する事もある。面会時に報告もかねて話をする事もある。利用者から意見や不満を聞く機会には設けられていない・・・	○	意見や要望があった場合には言われた職員より他の職員へ伝え対応の話し合いを行っている。日常の中で利用者の声に耳を傾け、内なる意見や不満を拾い上げていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に近況報告を行っている。金銭管理などについては責任者より行っているが、不在のときは出来ていない。職員の異動についての報告は出来ていない	○	発行している便りなどを活用して報告を遅滞なく行っていきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は特に設けていない。遠慮もあり相談出来ないのではないかと思う	○	家族の方々に事業所で見てもらっているという意識が働かないように、事業所から働きかけていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を中心に随時話し合いが行われる機会もあるので反映できるようにしている	○	足りてはいないが、職員増員の要求など反映されている。良い改善が出来るのであれば、今後も継続してもらいたい。十分機能していないものの管理者と運営者の会議の場も設定された
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員数が増えたがまだ不足していて十分とは言えない。夜勤時間の短縮など少しはよくなってきている	○	各ユニット一人ずつの夜勤配置を要望していき、転倒事故の防止につなげたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が多く利用者や家族から「また人が代わったの?」と言われることもあった。新入職者を拒否されることもあるので、利用者にとってのダメージもある	○	離職する職員がなくなるような労働環境の改善を運営者に行ってほしい。その為に管理者レベルでの働きかけを行っていききたい
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員ではないが外部研修に参加もしている。全職員に対しては法人内で定期的な勉強会が行われるようになった	○	研修や勉強会の機会を増やしてもらいたい。今年度途中より法人内の研修が計画実行されている。次年度以降は内容も強化されると思う。計画的な参加予定を立てることも可能かと思われる
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前よりは研修会等の参加への理解や機会等増えてきたと思うが、職員数の不足によって思うように参加できていない事も現状	○	研修の場での意見交換は行えているが、実際に見学や実習は機会が無いので実施できればケアの質の向上につながるのではないかと考えている。そのような機会の確保の為に、研修計画の作成を行っていききたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの軽減をする工夫等はあまりされていない。夜勤の時間短縮などは行われた	○	運営者に対して現場の状況を把握してもらえるように働きかけを行っていく（評価や指導、日々の記録などを根拠として）
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員レベルでは話し合いをしながら努めているが、法人全体としては取り組みが目に見える形で感じられない	○	次年度より法人内に人事部が設立され、人事考課の制度を実施することにはなっている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始前の訪問時以外特別な機会は作っていないが、話を聴きながら何を望んでいるのか把握できるように努力している	○	聞き取りの際の帳票の工夫を行い（センター方式のシートを利用前に書いてもらうなど）信頼関係構築の一助にしたい。現状では利用開始前に調査票になるべく具体的な記述を取り入れ全職員が確認できるようにしている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一部の家族に関しては出来ていない（遠方であったりの理由で・・・）利用開始前の相談については管理者が窓口となって行っており、相談記録をつけ管理、不定期ではあるが各ユニットへの報告も行っている	○	距離に関係なく関係を結べるように電話や文書などの手段を使いながら行っていきたい
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には内容により他のサービスや制度についての情報提供や助言を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能であれば、利用開始前相談時点で、本人にも来てもらい見学してもらう事もしている（家族と話をしている間、利用者と過ごす時間を作ったり）が、体験的な入居の形は実施していない	○	可能な範囲で利用希望者本人に来てもらえるような働きかけを行っていきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々学ぶことばかりいろいろな場面で考えさせられることが多い。アセスメントを参考にしながら本人の出来ることを尊重し共に生活できるよう努力している	○	利用者が何を望んでいるのかコミュニケーションをとりながら介護に努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に現況を伝え情報共有することによって本人により良いことをともに考えている。家族との話の中には事務的な会話になっている時もある	○	今後の話の際には気をつけて行っていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族が笑顔でいられるような支援を心がけている。贈り物が届いた際など電話をかけ会話を促すようにもしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前の実態を把握しきれていない面もあり支援できているとは言い切れない	○	入居後なかなかなじみの場所等に行く機会などなくなるので、家族と相談のうえ、支援をしていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症の進行により、コミュニケーションの行き違いなどで孤立してしまう場面が見受けられるが、職員が間に入り孤立しないようなかかわり、会話が成立するような橋渡しをしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係は大事にしているが、退去後の連絡はあまり実施できていないかもしれない	○	管理者を通じてしていることが多いが、各職員にもその状況が伝わるよう事業所内での連絡報告を多くしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を把握するようにしているがなかなか実行できていない面もある。自由に行動はできている	○	日々の会話や行動から、意向を拾い上げたりしていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント等により得られた情報を全職員が把握するように努めているが、一部の利用者に関しては把握しきれていない部分もある	○	足りない部分については、家族からの聞き取りを再度行うなどしながら把握に努めたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	勤務時間帯などはほぼ把握できるよう見守りを行っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が意見を出し合い作成しているが、全員での話し合いができず、出勤者での話し合いを引き継ぐ形になっている	○	家族に同意を得ているが、事前に要望や意向をもっと聴けるようにしていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記の話し合いから計画までは十分に出来ていない	○	話し合いと本人、家族の意向を元に計画の作成を行っていくため、担当者の計画作成時間を業務の中に明確に位置付けていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたこと等は口頭でも伝え改善出来ることは改善している。情報の共有も取り組んでいる	○	記録以外でも情報を共有し合えるように連絡方法を決めるなどの改善をしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族などの要望は出来る限り応じ、支援をしていると思う	○	希望する医療機関で、必要な医療を受けられる支援を行うなどしている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員の訪問など利用者は大変喜んでいる。ボランティアや小中学生の訪問など交流もある	○	消防団や警察なども交えての災害訓練などの実施を実施できるように働きかけを行っていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの活用はあまり行えていないが、医療的なサービス（歯科衛生指導や福祉用具の導入など）の活用支援は行っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現段階では協働は行えていない	○	制度の枠組みの中での利用者を介した協働は難しいが、事業所の機能を活かす（認知症介護の啓発活動など）は協働できるのではないかと考えるので、こちらからも働きかけを行っていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望を第一にかかりつけ医を選び支援している。	○	時と場合によっては、それぞれの症状に合った病院に通院支援をしたほうが良い場合もあるのではないかと考える
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医を通じての相談になっており、十分な支援が出来ていない(生活を通して認知症を理解してくれる医師の情報が把握できていない)	○	かかりつけ医との関係もあり難しいところもあるが、専門医(精神科心療内科ということではなく)との関係作りをしていきたい
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職との協働は出来ている(気軽にとまではいかないかもしれないが)	○	看護職とのコミュニケーションを円滑に出来るよう、各職員必要最低限の医療的な知識を身につけていくことも必要と考えている
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携をとる上で個人情報保護法により家族以外への情報を拒否されたことがあった	○	家族との連携も高めながら医療機関との情報を早めにとるようにしていきたい
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	話し合いは行っているが方針がずれることもある	○	今後は早めに意思を聞いておいた方がずれが生じないのではないかと考える
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	その都度実施はできていると思うが、何もない時点での準備はできていない	○	できる限りの準備はしておいた方が良いと考えている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換は行っているが実際利用者が住んでみると、不安はととても見受けられる。対処するが慣れるまでは不安は続くと思う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	保護に努めているつもりだが、気付かない間に当人を傷つけるような声かけを行なってるかもしれない。利用者の納得が得られないとき声を荒げている時があった	○	利用者の反応を確かめながら冷静に対処を心がけたい
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声かけなどを行い本人の意思を尊重している。なるべく自分で出来ることはしてもらっている		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人のペースで過ごしていただいているが、起床や就寝を促すなど希望にそって支援している人と、できていない人がいる	○	利用者の希望をしっかりと把握する為の聞き取りや日々のかかわりを心がけていく
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服は入居時に持ち込まれたものやその都度家族の方に連絡しながら揃えていただいている。理容に関しては美容師の出張で対応している	○	希望の店などは家族の対応によって行っている。職員が全て対応していくのは難しいが、希望を家族に伝えていくなど、協働での支援を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の手で準備などは行われているのがほとんどであるが、配膳下膳など手伝いもお願いしている	○	できる範囲で手伝ってもらえるような促しを各職員で意識して行っていきたい
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好に対応しきれてはいない（要望もあまりないので）おやつや時間などには本人に選んでもらったり状況に合わせて支援を行っている	○	本人の嗜好や要望を把握できるように日々のかかわりの中から見つけていきたい
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	「排泄はトイレで」を心がけパターンを把握して（記録表で）気持ちよくできるように支援している		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方に実施もしてみたが職員の数もあり午後に入浴を行っている。曜日を決めてはいるが、希望者には入浴できるように実施している	○	時間を限定せずに希望に沿った入浴ができるようにしていきたい
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりに任せ就寝の支援はできている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫物やカラオケ、散歩、畑仕事など楽しみ事、気晴らしの支援はできている	○	できていることが維持できるような支援、新しいことを見つけるための希望の抽出などに力を入れていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの認知機能、力に合わせて所持している人使用している人もいる		紛失や盗られたらと思う、不安になる人に対しては事務所での管理を行うなどしている。外出の際に使う場面を作るなどの機会を提供しながら可能性を広げていきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所敷地内は自由に出入りしている。職員数に余裕がある時には戸外へも出かけている。月に1回程度は外出を実施し喜ばれている	○	今後も定期的に企画を立てて実施していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回全利用者で出かける機会を作っている。家族との外出は自由に行ってもらっているが少ない	○	本人の行きたい所の把握などをするため、普段の会話などからそれとなく聞き取り、実施可能ならば家族とも協力して行っていきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望がある時には電話は行っている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られる方も多いので実施できていると思う。訪問者は各居室にてゆっくり会話していただけるようにしている	○	門扉に鍵が付いているため外来者からは入りづらい場所という印象を与えているかもしれないので、改善を図りたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践はできているとおもう。会議で学んだが、全員が理解はできていないかもしれない	○	各職員の個人学習や、事業所としての定期的な勉強会で意識の徹底を図りたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	やむを得ず(職員の人数不足)することはあったが、現在はほとんどしていない	○	他のユニット職員とも協力しながら連携によって屋外にいる利用者への対応も行っている。今後も本人の状態把握を定期的に行い、事故予防を図りながら、連携をとっていきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮し実施できている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所には危険物(刃物、洗剤等)あるため職員が離れる場合など施錠を行い危険防止に努めている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬防止のため服薬は一人一人手渡し確認しながら介助を行うなど事故防止に努めている。転倒については大丈夫だろうという思い込みなどから事故が発生してしまったこともあった	○	ヒヤリハット報告書や事故報告書を活用し安全確保のための対策を考えていきたい
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルは目に付くところにあるが、訓練に関しては定期的に行っていない。実際に起こった場合にパニックにならないか心配である	○	救急法の研修も含め繰り返しの訓練を行って(利用者個々の状態に合わせたロールプレイなども考えたい)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行っているが、地域との連携までにはいたっていない。夜間帯の災害発生に対しての不安もある	○	運営推進会議でもとりあげられているので、協力体制が得られる働きかけを行っていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時を利用したりしながら現状の報告をして、考えられるリスクについての説明を行い同意は得ている	○	口頭で終わってしまっている事も多くあるので記録をすること、プランへの付け加えをすることを徹底したい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	引き継ぎの際など心身の状態や変化などについては対応に注意するよう情報共有はできている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などの際には本で調べるなど対応を行っている。服薬表によって把握もできている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に対する工夫、水分補給や運動の促しなど予防と対応を心がけ実践している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人個人の状態に合わせ必要な介助を行い実践できている		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録などにより把握を行い、対応できるように支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいを徹底することを中心に予防への取り組みをしている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に直接触れないよう手袋の着用や手指の消毒、まな板包丁は殺菌庫に保管し殺菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地への入り口の門があり理解は得ているものの施錠もあり親しみ感が少ないような気がしている。	○	門扉周りに関しては費用的な問題もあるため難しいと思われる。景観を損なわない形での看板等(表札)の設置が出来れば少しは印象も代わるのではと考えている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りの工夫など取り組んでいる。トイレは採光のための窓が大きく外から見えてしまうなど工夫が必要	○	工事が必要なものなどはすぐに取り組めない(費用面など運営者の意向もあるので)ものもあるが、軽微な費用での工夫で対応を行っていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の決まった席があったり、自由に過ごせているのでおおむね実施できている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	温度計や湿度計を利用したりして、徹底を図りたい
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	トイレなどは広すぎるため手すりの増設が検討を要している
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		トラブルがないように声かけや説明を行っている。必要な場所、必要な場合には貼り紙等で場所の掲示を行ったりしている
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		花壇の花や、野菜で季節を感じられるようにしている。全利用者ではないが、自由に散歩や日光浴もしてもらっているなど活用されている

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本人を中心に考え、その人らしくできるよう職員一同少ない人数の中で、一生懸命支援させていただいています。入居者の皆さんが笑顔で生活できるよう思いやりある、家庭的なグループホームでありたいと思います